

目 次

はじめに

0. 福井県立美術館の特色

- (1) 福井県の美術文化の土壌
- (2) 開館当時の概要
- (3) 立地環境

1. 現状

- (1) 建物の状況
- (2) 実施事業の状況
- (3) 収蔵品の状況
- (4) 入館者数推移
- (5) 福井県立美術館の強みと弱み

2. 目指す姿

- (1) 基本理念 考え方や価値観
- (2) 将来的に描かれてほしい風景

3. 基本方針

- (1) 目指す姿への進め方、解決法となる考え方
- (2) 実施する事業
- (3) その事業を実施するためのリニューアルの方向性
(新しい要素、老朽箇所の更新、諸室の規模と構成)
- (4) 美術館の運営体制

4. 事業計画

- (1) 事業の規模
- (2) 今後のスケジュール

第0章 福井県立美術館の特色

(1) 福井県の美術文化の土壌

*美術館が生まれてきた理由

福井の美術文化は、近世から近代に至る複数の源流が重なって育まれてきました。

江戸初期の岩佐又兵衛は福井にて代表作を多く生み、明治以降は、岡倉天心（両親が福井出身）とその門流（横山大観・菱田春草など）たちが、越前和紙を積極的に用いて国産画紙の評価を高めました。さらに、福井ゆかりの日本画家・岡倉秋水、洋画家・鈴木千久馬、彫刻家・高田博厚といった作家群が地域の美術的蓄積を広げています。



横山大観《海一月あかり》
速水御舟《閑亭》
岩佐又兵衛《龐居士図》
菱田春草《落葉》



1922（大正 11）年には土岡秀太郎が「北荘画会」を結成し、中央との交流を持ちながら前衛思潮を地域に紹介しました、1930 年からは自ら建築したアルト会館で独立美術展を開催していきます。

戦後には、その理念を継承した「北美文化協会」が発足し、活動は自身の制作・発表にとどまらず、多様な受講生を受け入れた洋画講習会や、教育関係者と連携した児童画運動へと広がっていきました。このような背景は、のちに小野忠弘や山本圭吾らに受け継がれていくことになります。

1948 年には武生市（現・越前市）で第 1 回福井県総合美術展が開催され、公募展を軸に創作と鑑賞の裾野が拡大します。1950 年代には県立美術館の設置を求める機運が高まり、1958（昭和 33）年には福井県立美術館の礎となる岡島美術記念館が寄贈により開館。1977（昭和 52）年に現在の福井県立美術館が開館しました。



土岡秀太郎《自画像》、アルト会館、小野忠弘 無題《BLUE》シリーズ、岡島美術記念館

(2) 開館当時の概要

*美術館が生まれてきた理由

○沿革

1948 年に第 1 回県総合美術展が開催。県内各地に美術団体が結成され、各地で美術展が開催されるにおよび次第に美術に対する県民の関心が高まります。そうした機運の中、県総合美術展の会場難を契機として、1952 年に県立美術館建設の運動がおこるが、中々実現に至りませんでした。

1970 年（昭和 45 年）福井県立美術館調査委員会を設置

1975 年（昭和 50 年）福井県立美術館建設基本構想を発表

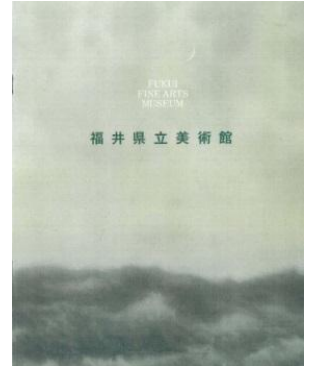
1977 年（昭和 52 年）本館開館

1986 年（昭和 61 年）展示室等の増改築が竣工

1986 年（昭和 61 年）実技研修棟 開館

1991 年（平成 3 年）収蔵庫を増築

2022 年（令和 4 年）開館 45 周年



■福井県立美術館 概要 昭和 61 年

○福井県美術館の設置および管理に関する条例（1977 年 10 月施行）

第 1 条 美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、福井県立美術館を設置する。



■開館当時の外観

○福井県立美術館の業務概要 *美術館活動の主軸

収集・保存

- ・ 福井の風土と歴史から生まれた美術資料および福井にゆかりのあるすぐれた美術資料の収集と保存
- ・ 国内外、時代を問わず、すぐれた美術資料の収集と保存
- ・ 美術資料の調査研究に必要な図書および文献など、二次資料の収集と保存

調査・研究

- ・ 美術資料に関する学術的な調査・研究
- ・ 美術資料の保存および展示に関する技術的な研究
- ・ 美術資料に関する解説書、図録、研究報告書などの刊行

展示

- ・ 収蔵品を中心とした常設展覧会
- ・ 美術館の調査・研究に基づく企画展覧会
- ・ 他の機関、事業体との共催展および貸館による展覧会

教育普及

- ・ 美術に関する講演会、研究会、鑑賞会、映写会などの開催
- ・ 美術に関する実技講座

施設・設備の提供

- ・ 美術に関する創作、研究、発表などのための施設・設備の提供

(3) 収蔵品の状況

*美術館の特色

■作品収集の基本方針

福井県立美術館のコレクションは、開館以来一貫して「①岡倉天心（覚三）と日本美術院周辺、②福井ゆかりの作家・作品、③時代や国内外を問わない優品」の三つの軸に沿って形成してきました。具体的には、横山大観・菱田春草ら日本美術院系、岩佐又兵衛や「北荘・北美」「小コレクターの会」関係をはじめとする福井由来の系譜、さらにドーミエ、ルオー、ピカソ、ミロなど国際的評価の確立した作家群を視野に入れ、近世から現代にわたる幅広い時代と、日本画・洋画・水彩・素描・版画・彫刻・工芸・書・映像等の多様なジャンルを対象としてきました。

その結果、現状の収蔵総数は3,219点（購入1,125点・寄贈2,094点）で、寄託品256点を含めると3,475点です。分野別には、版画904点や工芸816点が厚みを持ち、とりわけ工芸は寄贈が大半（816点中788点）を占めるなど、地域の文化資源を核にコレクションが充実しています。

この方針と蓄積の強みは、福井ならではの美術の流れを通史的にたどれる点にあります。すなわち、近世の岩佐又兵衛から、明治・大正期の日本美術院系、戦後福井の特異な美術運動（北荘・北美や小コレクターの会）や現代の作家群へと、地域性と日本／世界美術史の接点を一本の線で提示できる構成です。工芸分野のまとまった収蔵や、岩野平三郎関連資料、岡島・ジャクエツの各コレクションに代表されるように、地域の生活文化・産業文化と結びついた資料基盤も当館の独自性を支えています。

一方で、課題（弱み）も明確です。いわゆる“看板級”として広く知名度を喚起する作品は相対的に少なく、当館が所有する国宝・重要文化財はありません（重要文化財の所在は寄託2件に限られます）。このため、コレクションの物語性や比較展示、教育普及・情報発信を通じて価値を立ち上げ、集客力との接点を丁寧に設計していくことが、今後の運用面の要諦となります。

主要所蔵作品

① 近世以前の美術

近世初期からの基礎的な柱で、地域性と日本美術史の文脈を接続する中核です。

岩佐又兵衛《龐居士図》、葛飾北斎《杣人春秋山水図》、作者不詳《二十五菩薩来迎図》

② 近代日本画

岡倉天心ゆかりの初期院展系をはじめ、明治～大正期の展開を示す要所です。

菱田春草《落葉》、狩野芳崖《伏龍羅漢図》、横山大観《湖上の月》

③ 現代美術

戦後以降の創造的展開を示し、福井の美術運動とも接続する層です。

小野忠弘《無題》、瑛九《あそび》

④ 西洋美術

日本の近代美術受容とも関わる、19～20世紀の重要作を核とします。

パブロ・ピカソ《ランプの下の子物》、ポール・ゴーギャン《かぐわしき大地》。

⑤ 工芸（岡島コレクション・ジャクエツコレクション）

地域の文化資源を背景に、質・量ともに特徴的なまとまりを形成しています。

野々村仁清《色絵牛図茶壺》、〈軍扇文金合口拵〉、楠部彌弌《彩埴八つ橋花瓶》

⑥ 岩野平三郎関連資料

和紙文化と美術の接点を示す資料群で、近代以降の作家との交流を伝えます。

小杉放菴《秋溪》、竹内栖鳳《柳郷清暑》

(5) 福井県立美術館の【強み】と【弱み】

*強みと弱み

【強み】

○地域に根ざした文化的土壌

岩佐又兵衛、岡倉天心・日本美術院系、北荘画会など、近世から現代にわたる多層的な系譜を背景に美術館が成立している。

○特色ある収集方針と充実した資源

①岡倉天心と日本美術院、②福井ゆかりの作家・作品、③国内外の優品という三本柱にもとづき、3,000点超を収蔵。

- ・近世から現代まで、北陸・福井の美術を時間軸で横断的に総覧できる。
- ・北荘・北美に代表される先駆的で自由な活動の土壌を背景に、多様な解釈を育む柔軟性がある。
- ・横山大観と越前和紙の関わりなど、日本美術が世界へ展開する契機を育んだ歴史的背景を持つ。
- ・岩佐又兵衛から現代作家、さらにピカソ・ゴッホまで、地域性と世界性を一貫提示できる。
- ・工芸・和紙関連資料など、生活文化・産業文化と結びつく資源が充実。

○展示活動の積極性

所蔵品展では地域性や社会的テーマと接続しながら継続して展開。また、特別展はジブリ展や古代エジプト展等で県内外からの集客に成功し、共同主催やメディア連携で高い集客力を発揮。

○教育普及の多様性

ワークショップ「キッズミュージアム」、出前授業「ふれあいミュージアム」、ギャラリートーク、ナイトミュージアム等を通じ、子どもから大人まで幅広い参加機会を整備。将来の担い手育成にも資する。

○創作と発表の場の提供

実技研修棟の日本画・洋画・水彩講座や、高水準の稼働率を持つ貸館事業により、県民の創作・発表の場を継続的に支えている。

【弱み】

○“看板作品”の不足

国宝・重要文化財級など全国的訴求力の高い収蔵品に限られ、強い知名度喚起につながりにくい。

○県単独企画の集客力の弱さ

内容評価が高くても広報力や話題性が不足し、来館者数につながりづらい。

○展示・収蔵スペースの不足

県立美術館としての規模が全国的に見ても小さいために、特に展示・収蔵スペースが現状でも足りていない。

○教育普及と来館の接続不足

出前授業や無料券配布が実来館・リピーター化に直結しづらい。実習等の創作講座では年齢層や受講属性の隔たりが見られる。

○収蔵・展示基盤の課題

これまでの資料や工芸等の、厚みがある一方で、分野の偏りや保存・公開体制に課題が残る。
美術品展示保存環境基準への対応、搬出入・トラックヤードの検討が必要とされる。
コレクションの利活用の高度化の検討が必要とされる。

○施設の老朽化・機能低下

開館より大規模なリニューアルがなされていないために、修繕が必要な個所が多い。
現代的な展示の仕様に合致していない部分の刷新、省エネも含めて設備の更新の必要がある。

○ユニバーサルデザインへの対応

身障者用のスロープのない場所や、1階から2階へ上がる動線のエレベーターが不足している。
飲食可能なスペースも少ないことから、児童生徒や団体に対するスペースや、レセプション時の
軽食対応などができるスペースが必要とされる。

○セキュリティ及び防災機能の充実

執務スペースなどのセキュリティーゾーンの構成と警備体制の検討が必要とされる。
消防に関しては、新しい策定案を鑑みながら現行の法規に準じた体制を整える必要がある。

○時代のニーズへの対応と新しい美術館ファンの獲得

現代の社会から求められるニーズへの対応強化の余地がある。
企画展や作品の一時的な顧客だけでなく、美術館自体のファンを作る必要性が考えられる。
これまで美術館に興味がなかった人たちも、来たくなるような構えが必要とされる。
その上で、新しい顧客が継続して来なくなる体験の奥行きが必要とされる。

■【強み】と【弱み】から考察される改善点

コレクションの物語性や比較展示、教育普及・情報発信を通じて価値を創出し、集客力との接点を丁寧に設計していく必要がある。

施設の敷居の高さや老朽化に対応し、現代の感性に響くリニューアルを行い、多様なソフトと魅力的なハードの両輪によって、美術館の総合的な魅力を発信する。

「美術館そのもののファン」を獲得していくことが必要とされる。

美術館体験の奥行きを作り、継続して来なくなる美術館の姿をを目指す必要がある。

上記の改善点と、県民や内部の人々の価値観、こうなったらいいという希望、時代のニーズを混ぜ合わせながら目指すべきビジョンの策定が望まれる。

第2章 目指す姿を実現するため基本施策

(1) 基本理念 考え方や価値観

■基本理念 *ミッション（使命・役割 - why）県民文化への貢献を明確化

ex「福井の『歴史を紡ぎ未来を育む』これからの美術館」（仮）

ex「福井で生きていることを感動できる美術館」（仮）

ex「福井を感動できる美術館」（仮）

基本理念を体現する美術館像 *基本理念の意味を以下のように定義します

- ・ 福井の美術文化を牽引し、県民の誇りとなる美術館
- ・ 福井に生きることの誇りと楽しみを感じ、ともに未来を育む美術館
- ・ 福井の美術文化をのこし、伝えながら地域独自の魅力向上に寄与する美術館
- ・ 福井の美術文化を広く発信し、コレクションを通じて世界と繋がる美術館
- ・ 学びと交流を通じて次世代を育み、福井の美術文化を未来へとつなぐ美術館
- ・ 多様な文化活動を支え、気軽に表現し楽しめる場をひらく美術館
- ・ 世代や障がいの有無、文化・国籍にかかわらず、すべての人々に対して開かれた美術館
- ・ 社会との対話を図りながら、地域に深く根差した美術館

■運営の基本方針 *美術館の設置目的を達成するための方針の明確化

- ・ 優れた美術作品を収集・展示・調査・保存を行い、広く県民の鑑賞の機会を提供する
- ・ 美術を通じた様々な交流・体験の場となるように、活発な普及活動を展開する
- ・ 県民との積極的対話を図りともに文化活動の推進を図る
- ・ 美術に関連する多様な分野と連携し、文化活動の広がりを創出する

■新しい美術館の目指す姿 *上記を踏まえ、多くの人に魅力ある美術館であり続けるための姿
(where)

ex「みんなで育む（つくる）」「文化でつながる」「人と地域が変わる」これからの美術館

■ リニューアルのコンセプト

* 基本構想 (how)

* 上記美術館の目指す姿を使命とし、実現するために下記4つの柱を指針として展開していく。

人の心を癒し、感動や気づきを与える美術館

* 継承・強化

美術館は「人の心を癒す教会」「心の病院」ともいわれてきました。人々が集い、感動し、気づきを得て、明日への活力を得る——その本来の役割を次世代へと受け継いでいきます。

郷土や世界の芸術文化に触れる美術館

* 継承・強化

近世から現代に至る、国際的にも高く評価される福井ゆかりの美術作家の作品を核として収集・展示します。県内美術館のリーダーとして、地域の人々はもとより国内外の来館者を惹きつける展覧会・活動を展開していきます。

地域に貢献し、県の未来を構築する美術館

* 継承・強化、新たな課題やニーズに対応

美術文化を媒体として、美術愛好家、クリエイター、学生・教育者、メディアや企業などを育て、また多様な人々を紡いでいきます。アートに親しむきっかけを提供しながら、地域の文化的土壌を育み、未来の創造を支える種をまきます。こうした活動を通じて、新たな社会の創造的基盤を築いていきます。

社会に開かれ、多様なひとびとを招き入れる美術館

* 新たな課題やニーズに対応

近年の美術館には、従来の活動に加えて、多様な人々を受け入れ喜びを分かち合い、コミュニティを育む役割も求められています。新しい美術館は、こうした現代の要請に応える姿を目指します。

第1 総論 概要 キーワード

この美術館のあり姿を定めるための指針

社会に開かれ、多様なひとびとを招き入れる美術館

2022年3月に開館したばかりの美術館であるが、開館以来、多くの人々が訪れ、多くの作品が展示されている。この美術館は、地域の人々だけでなく、国内外の人々にも開かれ、多様なひとびとを招き入れる美術館である。

郷土や世界の芸術文化に触れる美術館

福井ゆかりの美術作家の作品を核として収集・展示する。県内美術館のリーダーとして、地域の人々はもとより国内外の来館者を惹きつける展覧会・活動を展開していく。

人の心を癒し、感動や気づきを与える美術館

美術館は「人の心を癒す教会」「心の病院」ともいわれてきました。人々が集い、感動し、気づきを得て、明日への活力を得る——その本来の役割を次世代へと受け継いでいく。

地域に貢献し、県の未来を構築する美術館

美術文化を媒体として、美術愛好家、クリエイター、学生・教育者、メディアや企業などを育て、また多様な人々を紡いでいきます。アートに親しむきっかけを提供しながら、地域の文化的土壌を育み、未来の創造を支える種をまきます。こうした活動を通じて、新たな社会の創造的基盤を築いていく。

社会に開かれ、多様なひとびとを招き入れる美術館

2022年3月に開館したばかりの美術館であるが、開館以来、多くの人々が訪れ、多くの作品が展示されている。この美術館は、地域の人々だけでなく、国内外の人々にも開かれ、多様なひとびとを招き入れる美術館である。

郷土や世界の芸術文化に触れる美術館

福井ゆかりの美術作家の作品を核として収集・展示する。県内美術館のリーダーとして、地域の人々はもとより国内外の来館者を惹きつける展覧会・活動を展開していく。

人の心を癒し、感動や気づきを与える美術館

美術館は「人の心を癒す教会」「心の病院」ともいわれてきました。人々が集い、感動し、気づきを得て、明日への活力を得る——その本来の役割を次世代へと受け継いでいく。

地域に貢献し、県の未来を構築する美術館

美術文化を媒体として、美術愛好家、クリエイター、学生・教育者、メディアや企業などを育て、また多様な人々を紡いでいきます。アートに親しむきっかけを提供しながら、地域の文化的土壌を育み、未来の創造を支える種をまきます。こうした活動を通じて、新たな社会の創造的基盤を築いていく。

第2 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第3 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第4 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第5 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第6 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第7 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第8 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第9 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第10 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第11 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第12 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第13 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第14 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第15 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第16 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第17 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第18 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第19 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第20 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第21 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第22 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第23 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第24 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第25 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第26 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第27 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第28 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第29 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第30 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第31 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第32 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第33 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第34 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第35 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第36 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第37 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第38 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第39 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第40 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第41 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第42 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第43 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第44 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第45 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第46 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第47 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第48 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第49 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第50 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第51 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第52 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第53 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第54 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第55 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第56 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第57 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第58 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第59 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第60 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第61 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第62 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第63 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第64 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第65 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第66 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第67 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第68 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第69 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第70 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第71 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第72 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第73 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第74 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第75 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第76 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第77 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第78 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第79 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第80 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第81 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第82 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第83 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第84 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第85 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第86 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第87 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第88 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第89 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第90 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第91 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第92 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第93 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第94 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第95 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第96 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第97 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第98 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第99 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

第100 施設概要 キーワード

この美術館の施設概要を定めるための指針

○令和6年度 あり方検討会 キーワード

○美術館基本的方向性 基本理念と指針

■「福井県文化振興プラン」と対応するソフト施策

→上記理念と下記 県の文化施策を、活動を通して実践していく

方向性 1「それぞれの楽しみをもっと応援」

美術館として県民のアート活動応援し、10代から20代の若手アーティストや障がいのある方の展示機会を増やす。また県内でアートやデザインを学ぶ人々に向けたサポート体制を充実させる。

方向性 2「みんなが気軽に表現・参加できる機会を増やす」

誰もがストレスなく楽しめる展覧会を開催。オンライン解説など新しい技術を活用した展示会や、館内のアクセシビリティの完備、さらに、わかりやすい動線を構築していく。

方向性 3「文化芸術の担い手を育てる」

美術運動グループとの連携を強め、美術資料をデジタル化して活用。アートを好きになる子供向けの講座や若者向けの美術講座を開催していく。

方向性 4「地域の文化を残す・伝える」

福井のアート活動を共有、福井県に關係する名作やゆかりの名宝を収集し、展示、適切に管理修復をしていく。また館外での活用、展示し、福井市以外の地域においても展示を行い、県民みんなで普及活動をしていく。

方向性 5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

気軽にアートを楽しめる空間を目指し、エントランスホール、カフェ、ショップなど気軽に立ち寄れる場所をつくる。アートを五感で体感できる空間を、美術館内に設ける。

方向性 6「文化芸術で世界と繋がる」

収蔵する名宝・傑作を年間通して展示。近世近代から現代に至る名品を展示し、年間を通じた来館者増を図る。

方向性 7「文化芸術×経済により新しい力を」

メディア等と連携して展覧会を開催。

企業や学校とのパートナーシップを結んで、鑑賞会を開催する等、成長していく組織づくりを行う。

基本理念

P7

ex 「福井の『歴史を紡ぎ未来を育む』これからの美術館」

ex 「福井で生きていることを感動できる美術館」

ex 「福井を感動できる美術館」

新しい美術館が目指す姿

P7

「みんなで育む（つくる）」

「文化でつながる」

「人と地域が変わる」

これからの美術館

リニューアルのコンセプトとソフト施策

P8

P9

コンセプト

県施策

ソフト

人の心を癒し感動や
気づきを与える美術館

「みんなが気軽に表現・
参加できる機会を増やす」

オンライン解説など
新技術を活用した展示会

アクセシビリティ
の整備

誰もがストレスなく楽し
める展覧会
わかりやすい動線

「文化芸術で地域独自の
魅力アップ」

気軽にアートを
楽しめる空間

気軽におしゃれな
エントランスホール、
カフェ、ショップなど

アートを五感で
体感できる空間

社会に開かれ多様な
ひとびとを招き入れる美術館

「文化芸術 × 経済
により新しい力を」

企業向けの
鑑賞会

県民のアート
活動応援

アート・デザイン
学びのサポート

「それぞれの楽しみ
をもっと応援」

10代から20代の若手
アーティスト・障がい
のあるアーティストの
展示機会の創出

メディア等企業との連携
展覧会の開催

メディア等企業・学校
とのパートナーシップ

循環する
体制づくり

地域に貢献し

県の未来を構築する美術館

美術運動グループ・
教育機関との連携

「文化芸術の
担い手を育てる」

アートを好きになる
きっかけ講座

若者向けアート講座

デジタルアーカイブ
の活用

郷土や世界の

芸術文化に触れる美術館

年間を通じ
福井のお宝に
触れ合える場所

「地域の文化を
残す・伝える」

福井のアート
活動を共有

福井県に関する
名作やゆかりの名宝を
収集・展示・管理・修復

館外での活用、展示
県民みんなに普及活動

「文化芸術で世界
と繋がる」

世界の名品に
出会う展覧会

福井の魅力を
世界に発信し
繋がる場所

(2) 将来的に描かれてほしい風景

●シーン1

新しい美術館のイメージ

○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・開放的な外観やエントランスが人を引き込み、その中でソフトが展開していく
- ・気軽に立ち寄りたくなる雰囲気
- ・リニューアルを表徴するイメージ
- ・憧れやSNSで拡散したくなる象徴性
- ・身障者にも対応したアクセシビリティ

○想起されるシーン

白くモダンな建物から、楽しそうな催しが見え隠れしている。角にはおしゃれなカフェがあり、オープンテラスでコーヒーを飲む人、真ん中にある大きな階段に腰かけて談笑する人々がいる。

階段の先にはシンボルツリーもみえ、2階からは、海外の観光客たちの楽しそうな声が聞こえてくる。大きな屋根の下には明るいガラスのエントランスが、こちらに顔を向けている。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性2 「みんなが気軽に表現・参加できる機会を増やす」

→館内のアクセシビリティ、わかりやすい動線

方向性5 「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

→気軽にアートを楽しめる空間

→気軽に立ち寄れるエントランスホール、カフェ、ショップ等

○新しい美術館のイメージ



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・ふらっと訪れた人が自然と美術館に引き込まれ、徐々に美術への興味を引き出す
- ・気軽に人々を招き入れる。見通しが良く様々な催しが見渡せ、体験の奥行きを誘発する
一案内看板、講義室（映像室）、多目的室、ミュージアムショップ、展示室
- ・身障者対応のスロープ、エレベーターを拡充し、アクセシビリティを向上させる
- ・美術館見学会待合、気軽に美術に触れあえるイベント、オープニングセレモニー、インスタレーション、パフォーマンス、ミュージアムコンサート、アートマルシェ等

○想起されるシーン

ガラスのエントランスを抜けると広くすっきりとしたホールに入る。ハイサイドからの陽光が入り込む明るい空間では、様々な演目が目に飛び込んでくる。今日はどのような体験をしようか？ 来館者が、これから巡る順路の相談をしている。

左を向くと、パーフォーミングアートや映画鑑賞の掲示板が見える。その隣のおしゃれなミュージアムショップには、観光客も含めた多くの人が集まっている。ホールの先には天井から何やらきれいなアート作品が吊り下がっている。さらに奥には、今やっている企画展示の入口が見える。

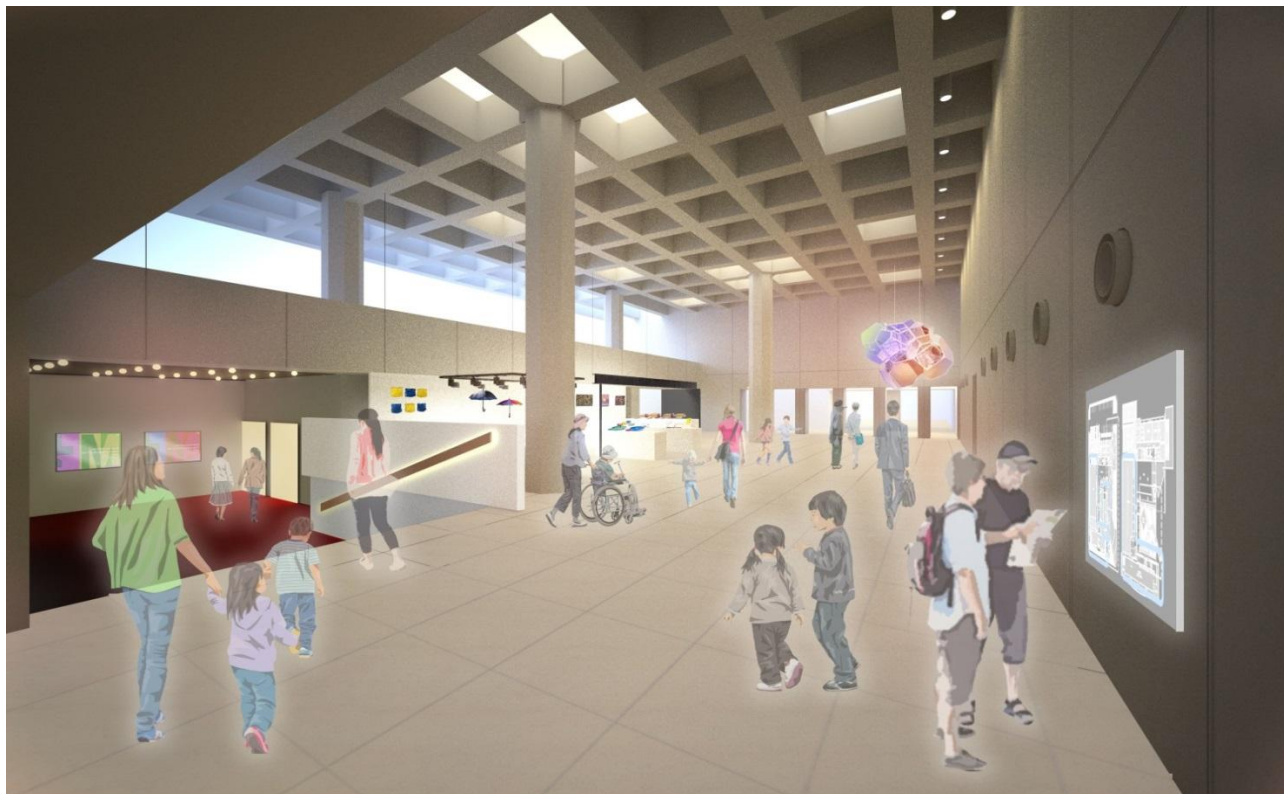
【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性 5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

→気軽にアートを楽しめる空間。

→気軽に立ち寄れるエントランスホール、カフェ、ショップなど

○気軽に立ち寄れる公共空間



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・多様な人々に開かれ、自然と人が集う「公園」のような場所
- ・人々が日常からリセットされ、五感を研ぎ澄ますスペース
- ・切り取られた自然と作品（彫刻）
- ・シンボルツリーなど、四季によって雰囲気を変えるシンボル（アート装飾等）
- ・東屋の入り口が新たな体験にいざなう
- ・屋外アート鑑賞会、アートマルシェ等

＊環境に配慮した建築計画を検討する必要がある

○想起されるシーン

大階段を上っていくと、周囲の喧騒から切り取られたポケットパークがあった。訪れた人々が思い思いに過ごしている。ベンチでゆっくりする人、写真を撮って皆で共有している訪問客、彫刻を取り囲んで難しい顔をしている子供たち。シンボルツリーは七夕やクリスマスに特別なアート装飾が行われるそう。広場の奥には、何やらかわいい形をした東屋がある。なんだろう？

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

- 気軽にアートを楽しめる空間、気軽に立ち寄れる場所
- 五感でアートを体感できる空間

○美に囲まれる広場 イメージ



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・光に包まれ、心地よさに満たされる「教会」のような空間としての美術館
- ・ココでしか体験できない驚きの空間
- ・五感に訴えかける福井の自然
- ・訪れた人々による SNS での拡散効果
- ・他の展示への知的好奇心の入口

○想起されるシーン

少し緊張しながら東屋の中に入ってみる。

うわっ、、空だけが切り取られた部屋の中に、七色の虹が降り注いでいる。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性 5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

→気軽にアートを楽しめる空間、気軽に立ち寄れる場所

→五感でアートを体感できる空間

○自然に包まれるような空間 イメージ



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・多様な催しを達成できる展示室（公開承認施設）（温湿度、耐荷重、演色性等）
- ・いつ訪れても福井の本物の美術作品・収蔵品を鑑賞できる常設展示室（日本美術も視野に）
- ・県展や若いアーティストや障害ある方の展示を可能とするハンドリングの良い展示室の拡充
- ・省エネ効果を実践する設備
- ・子どもから大人まで快適に過ごすことができる、バリアフリーにも配慮した空間

○想起されるシーン

企画展示室では、全国を巡回してきた展覧会が開催されている。夏休みということもあって多くの子供たちが押しかけてきている。壁にかかった絵画だけでなく、大きい彫刻や、映像があったり、天井から吊り下がった作品があったりと、いろんな作品に鑑賞者も驚いている。

美術館にある椅子に腰かけてスケッチしている少年もいる。

フランスからの観光客は、福井のお宝展示室の美術作品を目当てに館を訪れた。収蔵作品を中心に日本美術もゆっくりと見られる落ち着いた展示室で、多くの時間を過ごした。企画展示室を見に来た家族連れも、お宝展示室に足を運び、地域の美術にふれ、歴史が現代に続いていることを実感している。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性 1「それぞれの楽しみをもっと応援」

→美術館として県民のアート活動応援。若手アーティストや障がいのある方の展示機会を増やす。

方向性 4「地域の文化を残す・伝える」

→福井のアート活動を共有、名作やゆかりの名宝を収集・展示・修復・保存し、県民に共有

方向性 6「文化芸術で世界と繋がる」

→収蔵する名作・傑作を年間通して展示。近世近代から現代に至る名品を展示し、年間を通じた来館者増を図る

方向性 7「文化芸術×経済により新しい力を」

→メディア等と連携して展覧会を開催

○多様で特色がある展示室 1 イメージ（多様な催しを達成できる現代の仕様に準じた展示室）



○多様で特色がある展示室 2 イメージ (収蔵作品展示等 日本画にも対応した展示室)



○多様で特色がある展示室 3 イメージ (県展にも対応したハンドリングの良い展示スペース)



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・美術館を社会に開く、様々な催しに対応したスペース
- ・子どもが座って絵を見たり、声を出したり、ワークショップを行える空間
- ・生徒や教師、生涯学習に取り組む人々の学びの場
- ・クリエイティブな活動を展開する10代後半～20代前半の若者を受け入れ、担っていく活動
- ・教育関係団体等との連携、企業セミナー、クリエイターの自主企画など、幅広く自走できる企画
- ・飲食可能とし、展覧会レセプションにも対応

＊時間外利用も含め、セキュリティ動線を検討する必要がある

＊若手育成のためのプログラム等、規模に応じ別スペースに多目的展示室等が必要か？

○想起されるシーン

美術館前の大通りに面した部屋がクリエイティブスペースだ。学校帰りの子供たちがガラス越しに中の様子を伺っている。普段はアートやデザインの本が並んでいて、それを読みながら寛ぐことができるこのスペースも、小学校の子供たちが来たときは、粘土や紙細工でオリジナルのお土産を制作したり、地域のクリエイターのポップアップ展覧会が開かれていたり、いつも新しい何かをやっている。先日の夜は大人たちが、お酒を飲みながら夜間討論会を開いていた。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性1「それぞれの楽しみをもっと応援」

- 美術館として県民のアート活動応援、若手アーティストや障がいのある方の展示機会を増やす
- また県内でアートやデザインを学ぶサポート体制の充実させる

方向性2「みんなが気軽に表現・参加できる機会を増やす」

- 館内のアクセシビリティの完備

方向性3「文化芸術の担い手を育てる」

- 美術家運動グループとの連携を強める
- アートを好きになる子供向けの連続講座や夜間講座など若者向けの美術講座を開催

方向性5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

- 気軽にアートを楽しめ、立ち寄れる場所

方向性7「文化芸術×経済により新しい力を」

- 企業や学校とのパートナーシップを結び、鑑賞会等を開催、成長していく組織づくりを行う

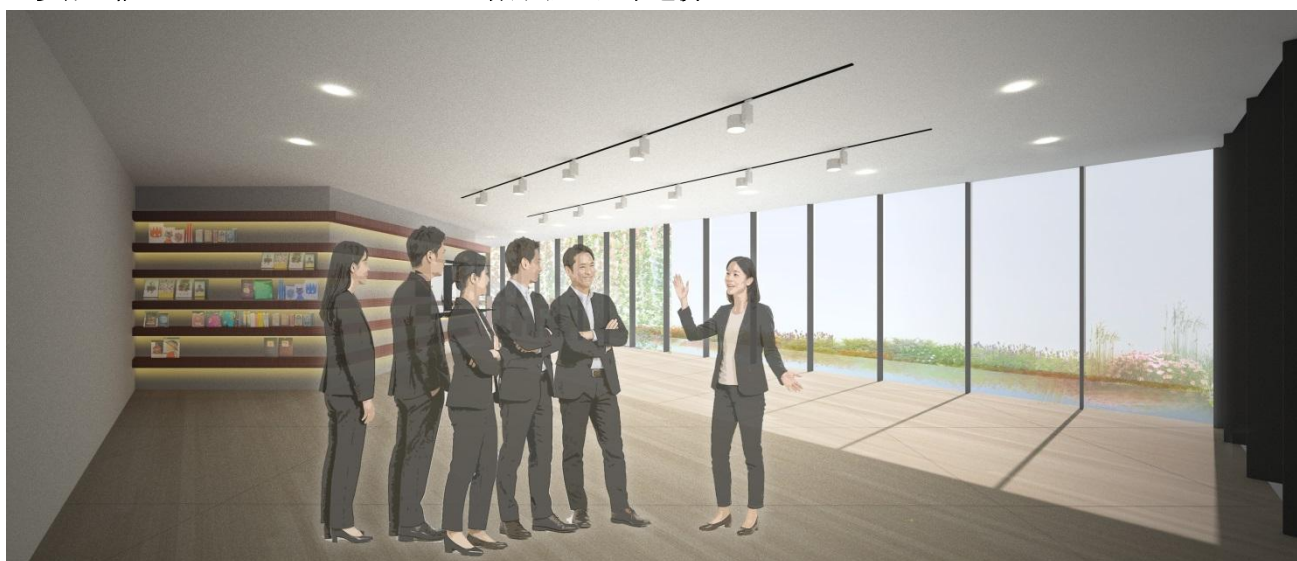
方向性3「文化芸術の担い手を育てる」

- 教育機関、市民団体との連携
- アートを好きになる子供向けの連続講座、夜間講座、若者向けの美術講座の開催

○多様な催し イメージ ワークショップ



○多様な催し イメージ パートナー企業研修 大学連携



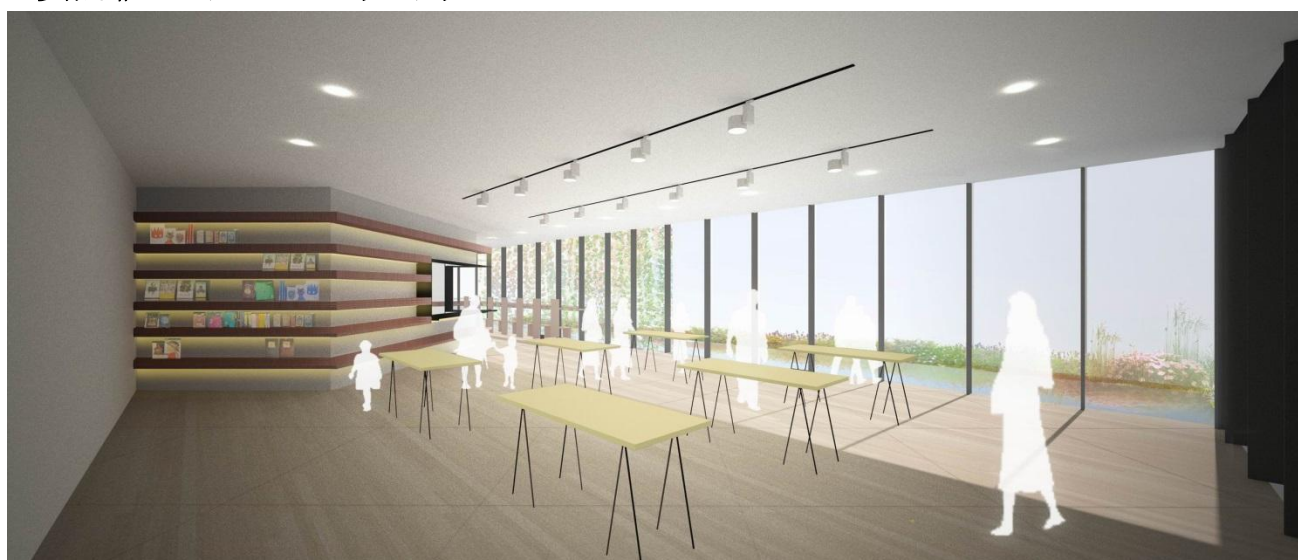
○多様な催し イメージ 親子づれ特別鑑賞



○多様な催し イメージ 若手アーティスト 発表（必要に応じ、別途スペース要検討）



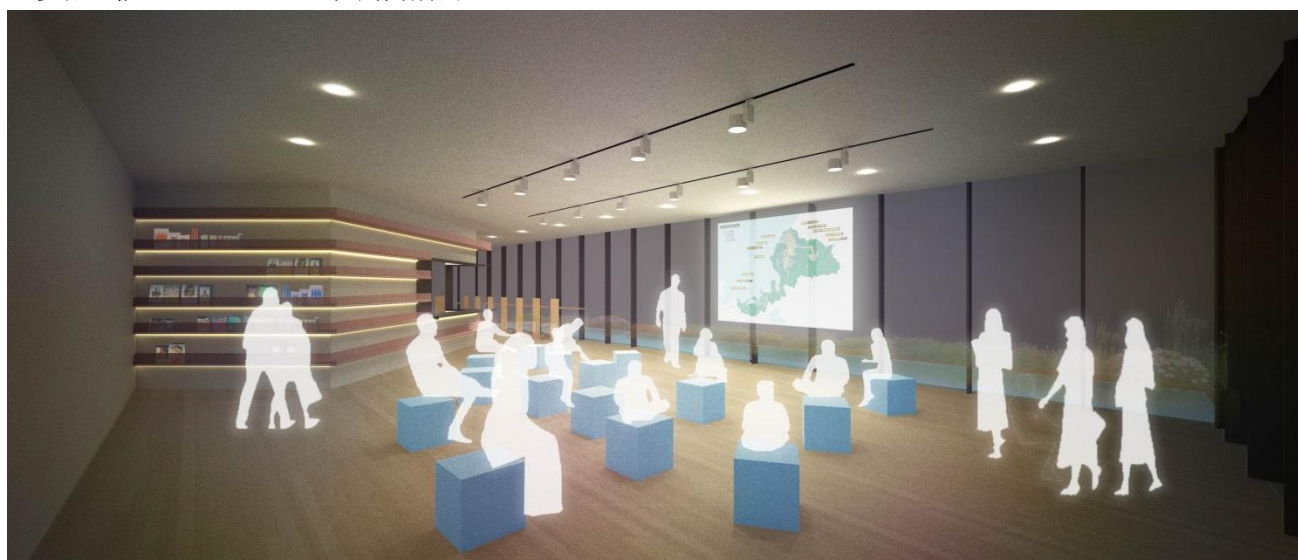
○多様な催し イメージ ブックラウンジ



○多様な催し イメージ 若手クリエイター ポップアップショップ



○多様な催し イメージ 夜間討論会



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・一般に開放された、訪問者と美術館活動との対話を生む場
- ・美術館を気軽に楽しむ人々、より深く美術が好きになる人々を育む
- ・生徒や教師、生涯学習に取り組む人々の学びの場
- ・このスペースでの体験を入り口として、展示室への興味を誘う

○想起されるシーン

フリーゾーンにあるギャラリーは、美術館と地域の人々の美術を通した対話が行われるスペースだ。このスペースには、美術展を見たいいろいろな人の感想などが貼ってあって、こういう感じもあるんだなあと、自分とは違う考えがあることが分かる。

今日は、企画展示室で行われている展覧会が、どういう流れで開催されたかを学芸員の先生が説明してくれた。絵画修復のお話など、普段絵を見るだけでは解らないことが沢山聞けて、展示している作品をもっとよく見てみたくなった。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性1「それぞれの楽しみをもっと応援」

→美術館として県民のアート活動応援

→県内でアートやデザインを学ぶサポート体制の充実。

方向性2「みんなが気軽に表現・参加できる機会を増やす」

→館内のアクセシビリティの完備、わかりやすい動線を構築していく

方向性3「文化芸術の担い手を育てる」

→アートを好きになる子供向けの講座や若者向けの美術講座を開催

方向性4「地域の文化を残す・伝える」

→福井のアート活動を共有、普及

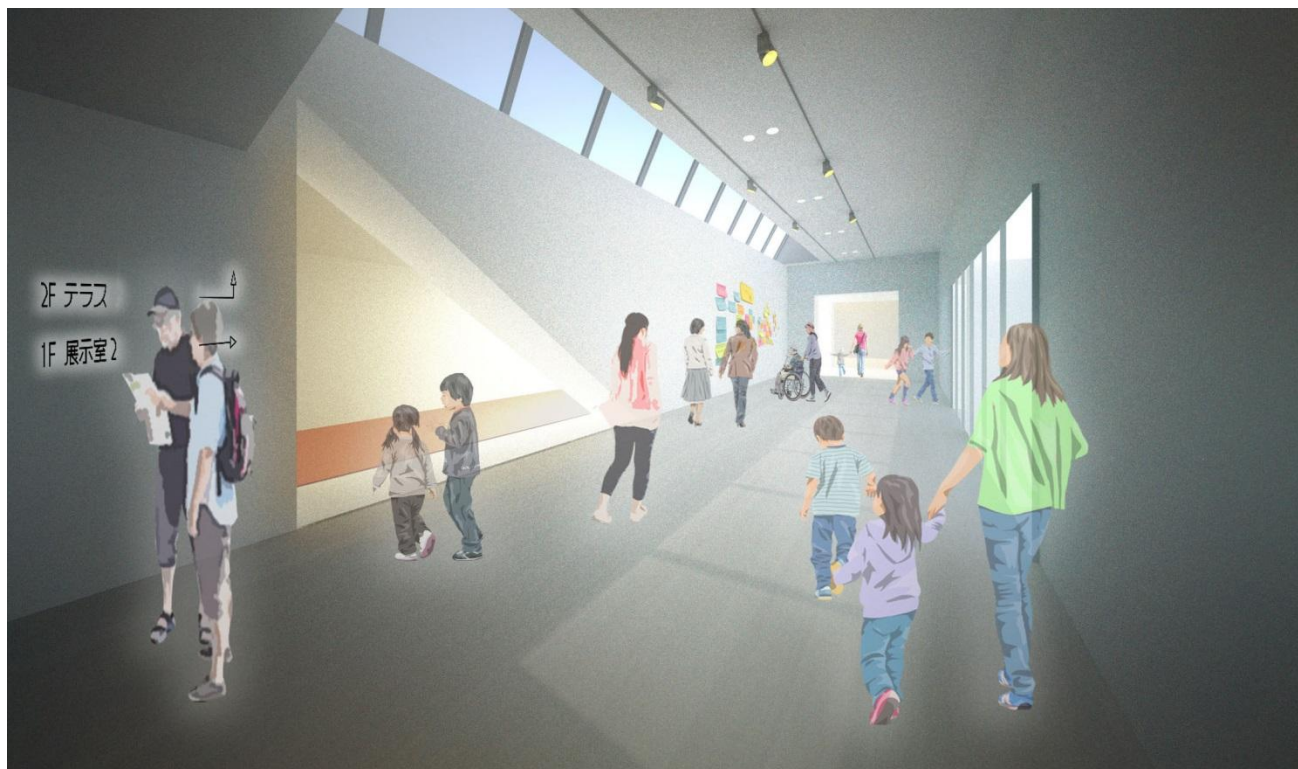
方向性5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

→気軽にアートを楽しめる空間を目指す

○美術館と対話ができる場 イメージ



○美術館と対話ができる場 イメージ



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・通常の美術関連商品の販売
- ・MOMA SHOPのように、美術館を広く県外・海外へ発信する場
- ・地域のアーティスト、企業、クリエイター、工芸作家たちとのオリジナルグッズを開発・販売
- ・福井の今を広く発信する場
- ・オリジナルグッズは、県内教育機関にお土産として配布

○想起されるシーン

エントランスホールにあるミュージアムショップでは、アートグッズの他に、おしゃれなセレクトショップのように、美術館のオリジナルグッズや、若手のクリエイターと工芸作家が共同で開発した商品が並んでいる。そんな「福井の今」が表現されている商品を求めて、海外からの観光客もお土産を買いに来ている。

今日の午後は、商品を開発した人たちの座談会がクリエイティブスペースで開催されるみたいだ。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性 3「文化芸術の担い手を育てる」

→クリエイターのオリジナル商品を開発・販売

方向性 5「文化芸術で地域独自の魅力アップ」

→気軽にアートを楽しめる空間を目指す

→エントランスホール、カフェ、ショップなど気軽に立ち寄れる場所をつくる

○ミュージアムショップ イメージ



○どんなスペース？ 想定できるソフト施策

- ・ 福井の美術文化の鉱脈に触れ、県内外の美術情報にアクセスできる場
- ・ 既にあるアーカイブを整理し、外部の人たちに資料を見せるような仕組み。持続可能のように
- ・ 研究者や、展示を見て興味をもった子供たちに情報を開く
- ・ これまでの展覧会図版を収納するとともに、時間軸で並べ、その歴史を一望

○想起されるシーン

展覧会で気に入った作品があったので、もっと詳しい情報があるらしいリファレンススペースに入れてもらった。ここでは、これまで開催してきた展覧会の情報や、福井の美術の資料が沢山あって嬉しくなった。昔福井でやっていたというビデオアートの映像作品を、コンピューター端末で見ることができた。

大学で美術を勉強しているという女性も本を積み上げて、難しい顔して調べ物をしている。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性3「文化芸術の担い手を育てる」

→美術運動グループとの連携を強め、美術資料をデジタル化して活用

→アートを好きになる子供向けの場所

方向性4「地域の文化を残す・伝える」

→福井のアートを収集・展示・修復・保存

○資料コーナー イメージ



○美術館の歴史を総攬する収納 イメージ



○どんなスペース?? 想定できるソフト施策

- ・所蔵品を適切に管理・保存するため収蔵庫を整備
- ・収蔵庫の一つを、人数を限定して、ツアー形式で外部に開く
- *現状で足りない収蔵庫スペースを新規設ける必要性がある
- *搬入トラックのスペースの検討が必要（10t 車等）

○想起されるシーン

今日は新しくなった収蔵庫で、県内の美術に興味がある先生や学生を対象にした収蔵庫ツアーが開かれている。美術館が持っている様々な作品の背景や、館の裏側を見ることができて、更に美術への興味が広がったし、いろんな人に伝えたくなった。

【県の文化振興プランでの位置づけ】

方向性 3「文化芸術の担い手を育てる」

- 美術家運動グループとの連携を強め、美術資料をデジタル化して活用
- アートを好きになる子供向け場所

方向性 4「地域の文化を残す・伝える」

- 福井のアートを収集・展示・修復・保存

○収蔵庫 イメージ



第3章 基本方針

(3) 目指す姿への進み方 解決法となる考え方

○美術館の新しい役割や姿を考慮し、一般来場ゾーンを再構築。ユニバーサルデザインを積極的に推進し、すべての利用者に配慮した空間とする

一般来場ゾーン エントランスロビー、研修室、キッズ&ロッカールーム等

○美術館活動の中核を担う重要な部分。現代の仕様にアップデートし、多様な活動に対応できる空間として整備する

展示ゾーン 展示室、貸展示室、講堂

○新しい美術館の「顔」として機能し、日常的に人々を招き入れる外向きの空間を創出。ミュージアムショップ、喫茶室、多目的スペース等を再構築し、多様な人々に開かれた場を提供する

新しい要素 正面玄関導入部分からエントランスロビー、屋外展示場

○美術館の歴史と裏側で行われている活動が社会へ開かれるような場を設ける
収蔵庫空間内の効率化および新規収蔵スペースを確保する

収蔵ゾーン 収蔵庫、収蔵庫前

○必要箇所を修繕するとともに、多様な活動を支えるための設備を整備する

管理・運営ゾーン 事務室、学芸員室、応接室、書庫、倉庫

○作品を適切に管理できる環境を維持しつつ、省エネに配慮した設備に刷新する

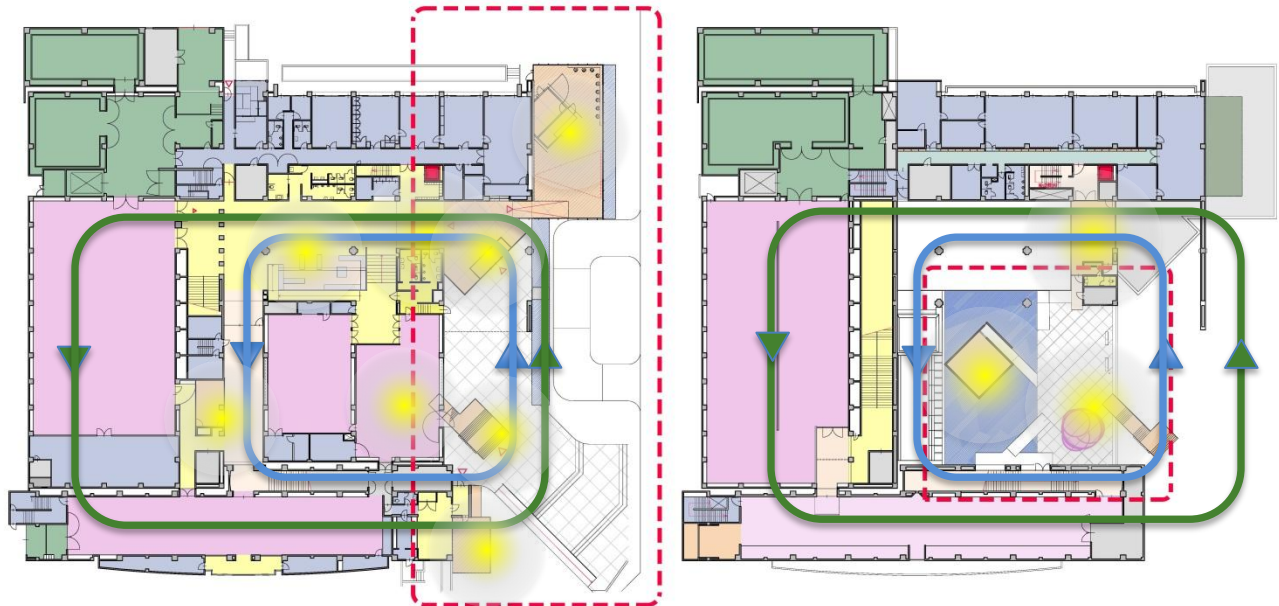
機械室ゾーン ボイラー室（地下）、電気空調等機械室、エレベーター



1 階ゾーニング例

■体験の奥行きを創る動線計画

- ・新たな様々な試みによって多様な人々を招き入れながら、美術館の体験を深めていく「奥行き」を創ることで、再訪する観客を増やしていく
- ・初めは気軽な来訪が、徐々に美術にも興味を抱かせる体験の奥行きを創る
- ・最終的に、様々な体験を通して、美術・「美術館のファン」を増やしていくことを目標とする。



1 階・2 階 動線図例

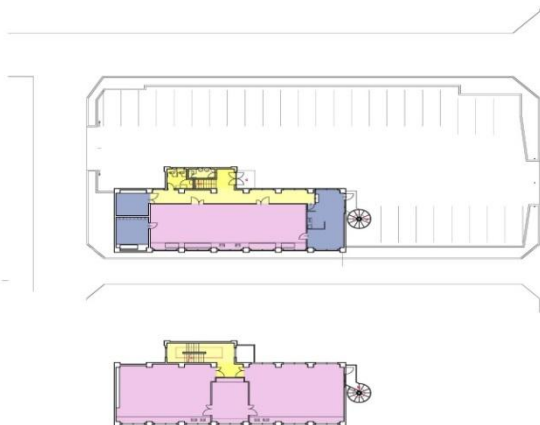
きっかけとなる体験

はじまりの動線

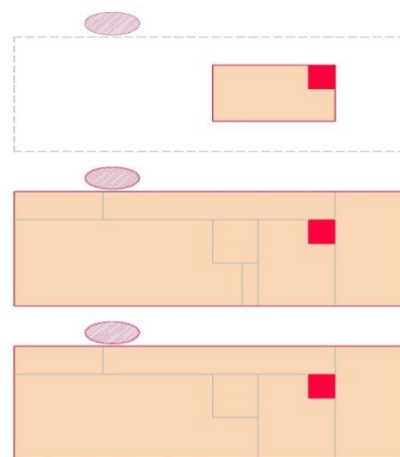
ふかまりの動線

■実技研修棟再整備検討の必要性

- ・手狭な展示室を補完するスペースを検討する必要がある
- ・県美展、10 代から 20 代の若手作家の展覧会。実技講座、アトリエ等の活動を包括的に行えるスペースが必要。今後は大きな可能性を持つ 10 代から 20 代の若手を刺激していくことで福井のアートシーンを活性化していく
- ・手狭な収蔵スペースおよび、アーカイブ用のスペースを拡充する必要がある



現状平面図



施設再整備の可能性